

平成 29 年度「つながる食育推進事業」成果報告書

受託者名	愛知県教育委員会
モデル校名称	瀬戸市立水野中学校
対象学年及び人数	全学年、476 人
栄養教諭等の配置	平成 25 年から栄養教諭が 1 人配置

1 取組テーマ

健康な心と身体をもつ生徒の育成
～人・命のつながりと広がりを通して～

目指す生徒像

健康な心と身体をもつために望ましい食生活や生活リズムを身に付けようとする生徒

目指す生徒像を実現するための手立て（「共食」を意識して）

- I 教科や日常の活動を通じた生徒への指導
- II 生徒・保護者の食に関する体験活動
- III 家庭・地域への啓発活動

2 推進委員会の構成

【愛知県学校食育検討委員会】

委員長：愛知みずほ大学短期大学部客員教授

委員：J A 愛知中央会地域振興部次長、愛知県小中学校 P T A 連絡協議会会計、
愛知県小中学校長会給食委員長、愛知県学校給食センター連絡協議会長、
愛知県栄養教諭・学校栄養職員連絡協議会長、愛知県養護教諭連絡協議会副会長、
愛知県健康福祉部保健医療局健康対策課主幹、愛知県農林水産部食育消費流通課主幹、
愛知県教育委員会高等学校教育課主査、愛知県教育委員会尾張教育事務所主席指導主事、
愛知県教育委員会東西三河部教育事務所指導主事（各 1 名）、
瀬戸市教育委員会学校教育課指導主事、実践校担当者（校長はじめ 4 名）、
愛知県教育委員会保健体育スポーツ課健康学習室事務局（室長はじめ 6 名）合計 24 名

【愛知県学校食育推進リーフレット作成委員会】

委員長：愛知みずほ大学短期大学部客員教授

委員：愛知県小中学校 P T A 連絡協議会会計、愛知県食育推進ボランティア、尾張部栄養教諭、
三河部栄養教諭、
愛知県教育委員会保健体育スポーツ課健康学習室事務局（室長はじめ 7 名）合計 12 名

【瀬戸市食育推進拡大委員会】（瀬戸市食育推進委員会を拡大）

委員長：推進委員会委員長（市内校長）

委員：愛知県教育委員会保健体育スポーツ課健康学習室主査、研究主任、教務主任代表、家庭科教員代表、養護教諭代表、栄養教諭代表、モデル校栄養教諭、モデル校養護教諭、愛知学泉大学講師、モデル校PTA母親代表、瀬戸市健康課、瀬戸市アグリカルチャー推進プロジェクトチーム、水野地区生産者代表（各1名）、協力校校長、瀬戸市教育委員会指導主事（各2名）
合計18名

3 連携機関及び連携内容

連携機関名	連携内容
愛知学泉大学	指導助言、データ分析
瀬戸市役所アグリカルチャープロジェクトチーム	各種生産団体との連携
瀬戸市健康福祉部	健康課題の共有・活動
瀬戸市立西陵小学校	小・中が連携した食育指導
瀬戸市立水野小学校	小・中が連携した食育指導

4 取組前のモデル校の状況

瀬戸市食育推進委員会が作成した指導の全体計画と年間計画に基づき、栄養教諭と担任がTTで食育の授業を行っている。また、栄養教諭配置を機に瀬戸市において中学生を対象にした授業実践モデル校となり、研究を重ねている。

生徒の朝食喫食率はかなり高いが、朝の部活動への参加、帰宅後の通塾などによって家族とそろって食事をする生徒の割合は低い。また、夕食時間が遅くなるため、間食をする生徒も多く、就寝時間も遅い。生徒にとって栽培活動は身近なものではない。

5 評価指標の設定について

（1）共通指標について

- ① 児童生徒の食に関する意識に関すること
 - ア 朝食を食べることへの価値
 - イ 共食をすることへの価値
 - ウ 栄養バランスを考えた食事をとることへの価値
 - エ ゆっくりよく噛んで食べることへの価値
 - オ 食事マナーを身に付けることへの価値
 - カ 伝統的な食文化や行事食を学ぶことへの価値
 - キ 食事の際に衛生的な行動をとることへの価値
 - ② 朝食を欠食する児童生徒の割合
 - ③ 児童生徒の共食の回数
 - ④ 栄養バランスを考えた食事をとっている児童生徒の割合
- ※ 共通指標は、児童生徒アンケートによって測定する。

(2) 独自指標について

- ① 肥満度－20%未満の生徒の割合
- ② 食べ物のありがたみについて考えて食事をする生徒の割合
- ③ 生活習慣病について知っている生徒の割合
- ④ 夕食を家族の誰かと一緒に食べる生徒の割合

※ 独自指標は、身体計測・生徒アンケートによって測定する。

6 実践内容（評価指標を向上させるための仮説（筋道）を含めて）

(1) 教科や日常の活動を通した生徒への指導

- ① 各教科・領域において「食」「健康」を扱う内容を3学年にわたって一覧表にし、系統性を明らかにした授業の実施。また、小学校での指導を反映。
- ② 給食の時間に、生徒個々の成長に合わせたごはんの量についての「適量指導」を実施。家庭にも個票を使って連絡。
- ③ 指導内容や配布物・掲示物について栄養教諭・養護教諭の連携。小学校との連携。
- ④ 生徒会委員会による「健康に関する呼びかけ」「給食の残滓調べ」などの常時活動。
- ⑤ 保護者・代表生徒・教職員参加の学校保健委員会での朝食についての意見交換。



【適量指導】



【保健委員会の活動】

(2) 生徒・保護者の食に関する体験活動

- ① 3年生・特別支援学級の栽培活動。特別支援学級は、校地外に田を借り、地域の農家の方に指導を受けながら餅米を栽培。収穫した餅米で餅つき会を地域の方を招いて行った。
- ② 2年生は、愛知県田原市にある「渥美どろんこ村」に出かけ、農業体験を実施。人が生きるために自然に働きかけることや、他の生き物の命をいただいて人が命をつないでいることを実感した。
- ③ 夏休みに、小中学生と保護者を対象に貸し切りバスを使って2回実施。1回目は、豆腐作り体験と味噌蔵見学。2回目は、名古屋市中央卸売市場で和食の伝統的な食材としての魚のよさを知った。共食について、親子の意識を高めることができた。
- ④ 「渥美どろんこ村」の方を2人招き、小中学生の保護者、モデル校の全生徒を対象に食育講演会を実施。命のつながりについて考える機会とすることができた。



【2年生農業体験】



【スタディツアー】

地場産業である焼き物作りを活用し、皿作りを実施。陶芸講師を招いて中学生の部と小中学生保護者の部の2回に分けて実施。焼き上がった皿に家庭料理を盛りつけ、家族の会食の場とすることができた。



【手作りの皿で会食】

⑤ 給食試食会を中学生保護者の部と小学生保護者の部の2回実施。栄養教諭より中学生期に必要な食事量や栄養などについて講演。その後、それぞれの家庭より持ち寄った子どもが日常使用している茶碗に「成長に必要なごはんの量」を盛りつけ、その量を実感していただいた。中学校で行っている適量指導を家庭でも行ってもらうよう意識啓発を行った。



【料理教室】

⑥ 和食料理店の料理長を講師に招き、「だしを利かせた和食・中学生に食べてもらいたい朝食」をテーマにPTA行事として料理教室を実施。

⑦ 和菓子店に講師を依頼し、和菓子作り教室をPTA行事として実施。

(3) 家庭・地域への啓発活動

① 毎月発行する学校だよりの中に「食育コーナー」を設け、取組について様子を載せた。このたよりは、校区内自治会の協力を得て、校区内住民に回覧されるようにした。学校HPでは、タイムリーに取組の様子を発信。瀬戸市の広報誌にも記事を載せた。

② モデル校区内の幼保小中高校、自治会、公民館、保護司、民生委員などが出席する会合で、外部から講師を招き、家庭における望ましい食事のとり方についての講演会を実施。

③ 瀬戸市の栄養教諭・学校栄養職員を対象に授業を公開。協議会開催。

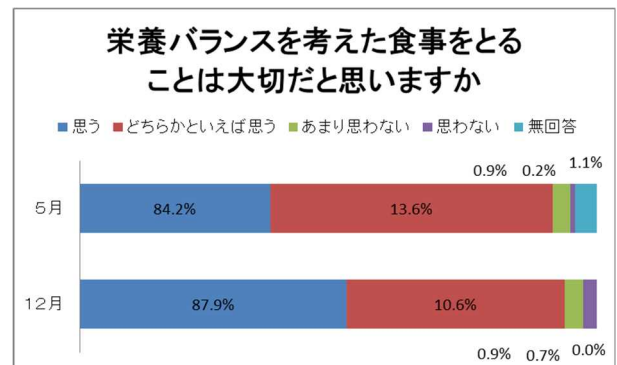
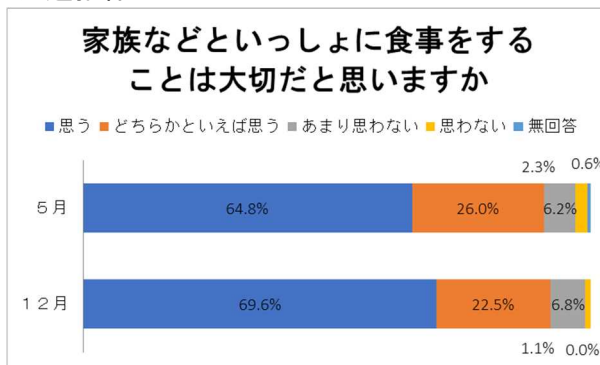
④ 瀬戸市子ども食育シンポジウムで、モデル校の取組を紹介。瀬戸市内の小中学校に事業成果の還流を図った。シンポジウムでは、モデル校のPTA母親代表が、学校での取組を受けて、家庭での食育のあり方や、学校との連携について意見を述べた。



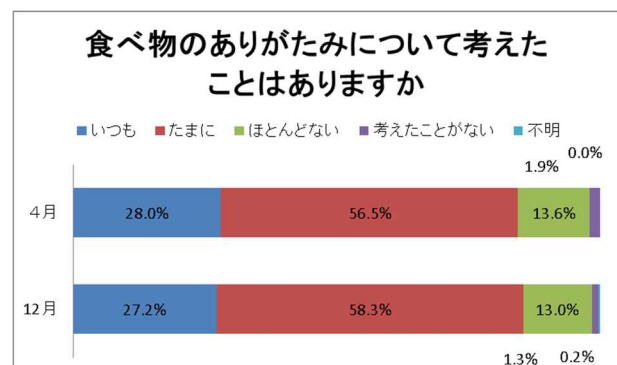
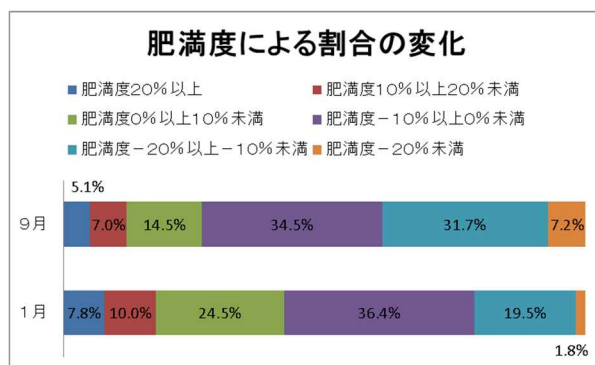
【瀬戸市食育シンポジウム】

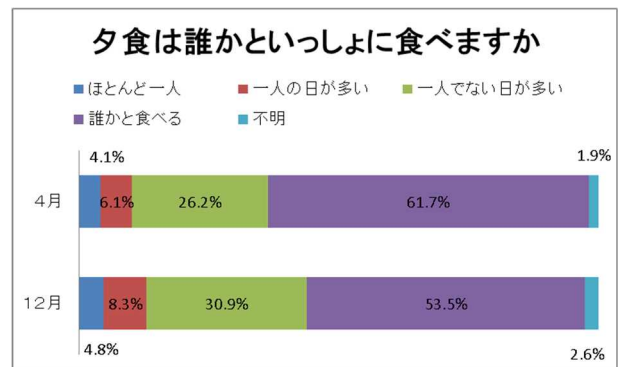
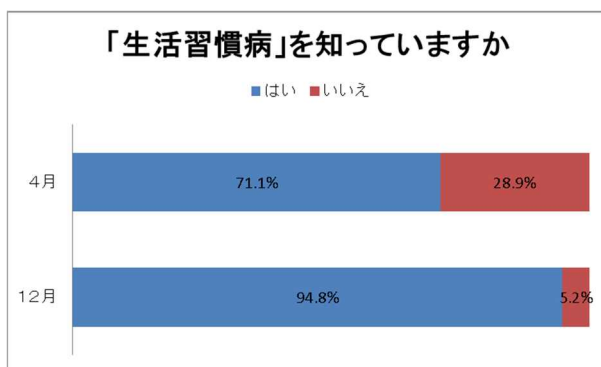
7 評価指標の測定結果

(1) 共通指標について



(2) 独自指標について





8 成果と課題

- 家庭にも協力を求めた「適量指導」を行ったところ、モデル校の生徒の大きな課題であった肥満度－20%未満の生徒の割合が7.2%から1.8%と大きく改善した。
- 教科・領域や小学校の指導段階を関連づけた一覧表を作成し、全校体制で授業や指導を行った結果、生活習慣病について知っている生徒の割合が71.1%から94.8%に大きく改善した。また、栄養バランスを考えた食事をとることが大切だと考える生徒の割合が97.8%から98.5%に改善した。
- 「共食」を意識した事業を行ってきた結果、その重要性について生徒の意識は90.8%から92.1%と高まりを見せた。しかし、その一方で、帰宅後の塾通いや地域クラブチームでの活動などの理由で、家族で夕食をとる生徒の割合が87.9%から84.4%に減少した。「家族がそろう日には一緒に食事をする」という呼びかけを行っていくことが重要である。
- モデル校の生徒のみならずその保護者やモデル校区内小学校の児童・保護者を対象とした親子スタディツアー、食育講演会、陶芸教室、給食試食会などを行ったことにより、モデル校での取組についての理解を深め、親子でのコミュニケーションを図るきっかけとなるとともに、家庭との連携を深めることができた。参加した保護者からは「学校主催の食育の行事に親子で参加することは大変貴重な経験となった。学んだことを話し合える機会があったので、生活の場で生かしていけたが、親自身も『学ぶ』姿勢と『取り組もう』とする意識が大切だと思った。」などの意見が寄せられた。
- 命のつながりを意識した取組を行ってきた結果、「食べ物のありがたみについて考えたことが全くない」と回答した生の割合が、1.9%から1.3%に改善した。

9 情報発信と普及の計画

- 今後も継続して、学校便りやHPで、食育について情報発信を行っていくとともに、家庭と双方向の情報交換を行っていく。

- ・ 瀬戸市広報での記事記載 (9月15日)
- ・ 水野中学校文化祭でのPR (10月23・24日)
- ・ 水野地区地域成果発表会(2月1日)
- ・ 瀬戸市子ども食育シンポジウムにおける成果発表(2月2日)
- ・ 平成30年度愛知県学校食育推進者養成講座において成果の発表 (8月6日)
- ・ 平成30年度「学校食育の重点目標」「義務教育諸学校における学校食育の指導と管理の方針」にて家庭とのつながりについて明記
- ・ 愛知県主催各種研修会等について成果報告